

8.31 大船渡ボランティア報告

1. 1日の流れ

13:00	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
14:00~15:15	役割分担（食事当番、掃除当番）
16:00~19:00	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親 が津波の被害にあった。
 - 自分も帰宅困難者の経験をしたことから。
 - 他人事にせず、日本人として日本のために何かしたいと考えたから。
- なぜ今ボランティアするか。
 - 直接被災したわけではないので、他人事のように感じていた。このまま東京で暮らしていたら、東北支援への思いがうすれてしまう。
 - スケジュールに余裕があったため。
 - 東日本大震災のさい、国内にいなかったため、罪悪感を感じた。そのため、今ボランティアに行かないと後悔する。
- なにがしたいのか？
 - 被災者と同じ目線に立って考えたうえで行動したい。
 - 人の役に立ちたい。
 - 現地の人の声が聞きたかったから。

- 学習ボランティアと聞いて参加したが、実際は多様な活動を行っているため積極的に頑張りたい。
- 自分が今できることをしたい。

ひとりひとりボランティア参加前に何を考えるのか

ボランティア中に何を感じるか

ボランティア終了時何を思うのか考慮したい。

9月1日活動報告

＊スケジュール＊

7:10～7:40 朝食

8:30 宿舎出発

9:50～10:10 陸前高田視察

11:00～11:30 大船渡視察

11:45 大船渡市社会協議会 挨拶

12:15～12:30 地ノ森仮設住宅 訪問

13:45～14:30 昼食

【山岸仮設住宅班】

14:30～16:00 チラシ配布

16:00～17:00 食材買い出し

17:20 帰宅

【轆轤石仮設住宅班】

14:30～16:05 チラシ配布

17:15 帰宅

19:00～19:40 夕食

20:10～21:45 ミーティング

22:10～23:15 スタッフミーティング

＊陸前高田視察＊

震災から5か月半以上が経過しているとはいえ、倒壊したままの建物などを見て、メンバーは衝撃を受けたようだった。瓦礫の山は、鉄くず・車・コンクリートなどに仕分けされており、もともとは市街地があったとは思えないほど殺風景であった。20分ほど個人で周辺を視察したが、泥だらけの子供の靴やアルバム、野球グローブなど、個人の私物が多く見られた。震災以前は、今自分たちが歩いている場所で普通の生活をしている人がいたことを思うと、やりきれない気持ちがこみ上げた。

＊大船渡視察＊

三陸地形を生かした形成と防災都市計画がしっかりしていたため、被害は1割程度で済んだ様であった。しかし、瓦礫の分別状況などを陸前高田と比較すると、復興のペースが遅い。そのペースの差は、地形による高低差や、地権所の承諾がないと作業に着手できないといったことが障害となって生まれている。また、ボランティアセンターのスタッフの数が少なく、大人数の活動を組織する経験も少ないという事があげられる。

市内のホテルには、比較的大きな被害を受けながらも、もうすでに営業を再開しているところもあった。その点では、大船渡市民の方々の復興に対する強い意志を感じた。

事前の説明では、魚の腐敗臭などによりかなりの悪臭が立ち込めると聞いていた。しかし実際は震災から時間も経っていることや、深海への投棄などにより、あまり気にならなかった。

＊こびるの会 チラシ配布＊

午後からは、山岸仮設住宅班と轆轤石仮設住宅班に分かれた。

山岸班では、青学ボランティアは初の参加であったが、居住者は様々なボランティア団体の訪問に辟易している様子であった。長洞仮設住宅ではベンチ作りなどの活動によって事前に居住者に認知され、親しみをもって受け入れていただいたと聞いた。そこから、地道な作業を継続する大切さが身にしみた。また、今までのボランティアの人達の活動のありがたさを感じた。

轆轤石班では、子供と会話する機会があった。そこで「夏休みはなにをしていたの？」という質問をしたところ、震災の影響でもともと夏休みが少なく、さらに仮設住宅への転居によりほとんど遊べなかったという返答があった。自分にとって気軽な質問であっても、被災者にとってはそうでないことを実感した。どう接すればよいのか、未だ戸惑っている。

9月2日活動報告書

＊スケジュール＊

7:00 朝食
8:25 拠点出発
9:30 グループ1 YSセンター到着
 グループ2 社会福祉協議会挨拶
9:40 グループ2 YSセンター 到着
9:50 ベンチ設置に関連する意識調査 説明
10:45 YS 出発
11:00 地ノ森仮設団地到着
11:00～12:30 聞き取り調査
12:30～13:00 昼食
13:00 出発

【山岸仮設団地班】

13:30 仮設団地到着、準備
14:00 こびるの会開始
15:30 こびるの会終了
15:30～15:45 片付け
15:45 仮設住宅出発
17:20 拠点到着

【轆轤石仮設住宅班】

13:10 仮設住宅到着、準備
14:00 こびるの会スタート
15:30 こびるの会終了
15:30～16:00 片付け
16:04 仮設住宅出発
17:40 拠点到着

☆活動報告☆

今日は午前中、地ノ森仮設住宅で聞き込み調査を行いました。世間話を交えてのちょっと込み入った調査は初めてだったので、最初はとても緊張しました。調査を行ってみると、前の班が作ったベンチは住民の役に立っていたようでした。一方で、目が合ってしまうなどの気まずさにより、設置場所の配慮がもうちょっと必要だと思います。

午後からは、山岸班と轆轤石班に分かれてお茶会(こびるの会)を開催しました。山岸班では、15人ものおばちゃんたちが来てくれました。最初は2,3回しか会ったこともない人もいて緊張した様子でしたが、次第に溶け込んで終始楽しそうにおしゃべりしました。轆轤石班では、入居してから日が浅いので面識がなく、最初は緊張した様子でした。ただ、沈黙する場面はあったものの、横のつながりが出来かけていると感じた。両会ともに成功したといって良いと思います。

9月3日活動報告書

＊スケジュール＊

7:00 朝食
8:35 ミーティング
9:00~10:50 拠点での物品整理やマッピング、「はまっぺし※」準備など
11:00 拠点 出発
12:00 社会協議会 挨拶
12:15 YSセンター 到着
12:20~12:50 昼食
13:00 YSセンター 出発
13:20 杉下仮設住宅 到着
15:35 杉下仮設住宅 出発
17:00 拠点 到着

☆活動報告☆

8月の中旬ベンチ作りと盆踊り大会を行った杉下仮設住宅では、ベンチの意識調査をしました。このベンチの意識調査は以前に酪農学園大学が行った仮設住宅の聞き取り調査の結果としてできたコミュニティ形成へのニーズがあるとしてベンチを作ってきたその結果をアフターフォローとしてやっているものです。

項目としては、

- 1、ベンチがあることを知っているか。
- 2、ベンチを利用したことがあるかどうか。
- 3、他の人がベンチを利用したのを見たことがあるか。
- 4、仮設住宅の棟にある班長さんを知っているか。
- 5、自治会主催のイベントとして何をしたらいいか。
- 6、ご近所づきあいはどうか。

以上の6つを聞いてきました！結果としては、多くの住民の方がベンチを利用していてとても嬉しかったです。この結果をまとめて、コミュニティ形成へ向けての活動に活かしていけたらと思います。

仮設住宅に住んでいる子供たちは、以前のベンチ活動に参加してくれていたのも、チャイルド・ファンド・ジャパンの車や青学のTシャツを見ると駆け寄ってきてくれて、これまでの活動が住民の方たちに知られていると感じました。集会所にも遊びに来てくれて、私たちの脱いだ靴を1つ1つ嗅ぎまわり、その中で1番臭い選手権を開催

してくれました(笑)見事に初代靴くさチャンピオンに輝いたのは・・・む〇っさんです!!
おめでとう!!!

晩ごはんはカレーライス。な、なんと納豆をトッピングして食べました。ネバネバだ
けど、けっこうはまっちゃうかも・・・

9月4日活動報告書

＊スケジュール＊

8:30～9:00 朝食
9:45 任意の礼拝
11:00 拠点 出発
12:00 社会協議会 挨拶
12:10 YSセンター 到着
12:15～12:50 昼食
12:55 YSセンター 出発
13:20 山岸仮設住宅 到着
14:20 出発
15:00 大豆石仮設住宅 到着
15:35 出発
16:00 夕食の買出し
17:00 拠点到着

☆活動報告☆

今日は山岸仮設住宅ではまっぺし（食事持ち寄り会）の訪問ビラ配りをしました。前回こびるの会にいらしてくれた方々が、蒸し克蘭ベリーケーキをふるまってくださいました♪♪ごちそうさまでした！！本当においしかったです^^子どもたちも興味津々でビラ配りも一緒にしてくれました。おじちゃん、おばちゃんと言われて衝撃でしたが・・・そんな年に見えると思われて少しショックでした！

その後大豆石仮設住宅で待望のベンチ作りをしました。運転手さんと住民の方々にも手伝っていただき、手際よくすすみました☆住民の皆さんに温かく見守られ、支えていただき本当に感謝してもしきれません。まだ半分しかできあがっていませんが、次回には仕上げます！！

今日やっとボランティアらしいボランティアができたと感じました！

9.5 活動報告

1.

5:30 朝食班起床
6:00 朝食準備開始
7:10 朝食
8:15 出発
9:10 長洞仮設住宅到着 ベンチ作り 雨のため途中で中止
10:30 長洞仮設住宅出発
10:40 YS センター到着
10:50 YS センター掃除
11:50~12:25 昼食
12:45 チラシ作り、のぼり作り
14:30 長洞 ベンチ作り再開 雨が上がったため班を分け再開
15:20 作業終了
16:00~17:30 大船渡第1中学校 学習指導

2. ミーティングでの議事録

【ベンチ製作】

- ベンチの聞き取り調査をしたため、ベンチの重要性がわかり、ついにそれを行うことが出来てよかった。ベンチが完成したときは達成感を感じた。
- 人から見えない奥の場所で活動すると、住民の人とのふれあいが出来ない。

【のぼり製作】

- 広告などを作る際に色合い、デザイン、配置の考慮が重要となる。いつどこで誰が何のために使うのか、それを熟考する必要がある。
→今回は食事会のため、暖色系の配色で高齢者にもわかりやすいビビットカラーを使用した。また文章を強調する優先順位を考えた。

【チラシ作り】

- 学生らしい表現を使用し、どうやったら自分たちの主張したいことをわからかく伝えられるか、工夫した。
- 文章が長すぎてパッと見てわかりにくいため、今後見やすいように改良する。

【学習支援】

- 中学3年生の生徒14人(男4人、女10人)を指導した。中学の学習との空白があったため、すぐに答えることが出来ないものもあり、もどかしかった。
- 以前活動したボランティアの名前を覚えてくれていて、短い交流ではあるが、私たちの活動が影響を与えていると感じた。

9月6日活動報告書

6:00 朝食班起床
6:20 朝食準備開始
7:10 朝食

【グループ1】

8:20 拠点出発
9:25～10:05 YSセンター到着、チラシ・のぼり製作
10:05 YSセンター 出発
10:25 山岸仮設住宅 到着

【グループ2】

8:20 拠点出発
9:45 山岸仮設住宅 到着
9:45～19:10 「はまっぺし」準備

【グループ3】

8:30 おにぎり作り、掃除
9:30 拠点 出発
10:50 山岸仮設住宅 到着

11:20～13:05 はまっぺし開催

13:05～13:30 片付け

14:05 長洞仮設住宅 到着

14:15～ はまっぺしのチラシ配り 終わった人からベンチのペンキ塗り

15:40 長洞仮設住宅 出発

16:40～17:30 大船渡第1中学校 学習指導 生徒数；男7 女16

3. ミーティングでの議事録

【はまっぺし】

- ひつつみの作り方を優しく教えてくれた。みんなでしゃべったり笑った

りしながらわいわいやっていて、とてもいい雰囲気だった。

- 仲良くおしゃべりしているように見えたが、部落ごとで固まってしまっている傾向があった。
- 持ち寄りの食事会であったが、持ち寄ってくれた人が少なく、偏ってしまった。
- 机の並べ方や自己紹介などで住民の意見を尊重できた半面、部落ごとにまとまってしまうなどフォローできていない面があったことが課題。
- 住民の中で主催者とゲストに別れてしまっていた。もっと大人数で食事を作るか、もっと少量をみんなが持ち寄り全員が主催者となるほうがいいかもしれない。
- “もらい慣れ”というものがあるのかどうか、その点の経過を今後慎重に見ていく必要がある。
- はまっぺしはコミュニケーションがとりたいけど取れないという人だけでなく、元気で頑張ってくれている人のストレス解消や心のケアにもなっている。

【長洞仮設住宅 チラシ配布】

- 震災でパートナーを失ったおばあさんが、青学の人やボランティアの人がこうやって来てくれるだけでさみしさがまぎれる、と言ってくれたのが嬉しかった。ちょっとしゃべっただけだが、少しでも誰かの役に立っているのを実感できて、心を打たれるものがあった。
- 20~30代の若い方は、ほかの高齢の方と比べると心が通わないというか、興味がなく冷たい印象を受けてしまう人が多かった。

【学習支援】

- 中学3年生の生徒23人(男7人、女16人)を指導した。予習はしていたものの忘れていることが多く、うまく説明できなかった。学習支援をする前に教科書を復習していた方がいいという案がでた。
- 「明日も来てくれるの？」という女生徒からの言葉が嬉しかった。初めて生徒自身から交流してくれて、うれしかった。
- 最初から答えを教えるのではなく、まず自分で考えるようにアプローチした。

9.07 活動報告

1. 1日の流れ

13:00	遠野駅着
13:00~14:00	引継ぎ開始
14:00~15:15	役割分担（食事当番、掃除当番）
16:00~19:00	夕食準備開始
19:00	夕食
20:20~21:40	ミーティング
22:30	スタッフミーティング

2. 活動内容

夕食づくり。ミーティング（自己紹介、抱負）

3. ミーティングで出た抱負、ボランティアに参加した理由、アドバイス等

- 震災を身近なものと感じた。
 - 自分の友人の親 が津波の被害にあった。
 - 他人事にせず、日本人として日本のために何かしたいと考えたから
- なぜ今ボランティアするか。
 - スケジュールに余裕があったため。
 - 前期中は学業に専念し、夏休みに何かやりたかったから
- なにがしたいのか？
 - 被災者に寄り添って行動したい。
 - 人の役に立ちたい。
 - 現地の人の声が聞きたかったから。実際の状況を見てみたい。
 - 学習ボランティアと聞いて参加したが、実際は多様な活動を行っているため積極的に頑張りたい。
 - 自分が今できることをしたい。

どうしてボランティアに参加するのかについて常に考え行動することで、より深いものが得られるはず。

また、再度参加する方々は、それぞれに「まだやりたい」「最後まで見たい」という、強い決意を持って参加している。初参加の人も含め、参加日数の違いはあったとしても、それぞれしっかりとした意思を持って、最後まで活動したい。